



2025年3月期 決算説明会資料

2025年5月30日 アイコム株式会社 代表取締役社長 中岡 洋詞

アイコム株式会社



「100年企業」を目指して



アイコム株式会社

アイコム株式会社の概要

■ アイコムとは

- 1954年創業、1964年設立された**無線通信機器**の企画・設計・製造・販売会社です。
- 主要な無線機カテゴリとなる陸上業務・海洋・アマチュア・航空・受信機・WLAN・IP無線・衛星無線を**同一ブランド**である「**アイコム**」として提供できる**唯一の総合無線機メーカー**です。

グループ総社員数：1,057名

2025年3月末

本社：**627名** / 和歌山アイコム(株)：**243名** /
海外現地法人：**145名** / 国内子会社：**22名**

グローバル企業：

国内拠点 **14**、国内子会社 **4社**、国内販社 **200社**、
海外子会社・孫会社 **9社**、海外販売店 **70社**、関連会社 **3社**

60年の存在と実績：

創業時から独立系資本を維持する無線通信機器メーカー。
プライム市場上場企業

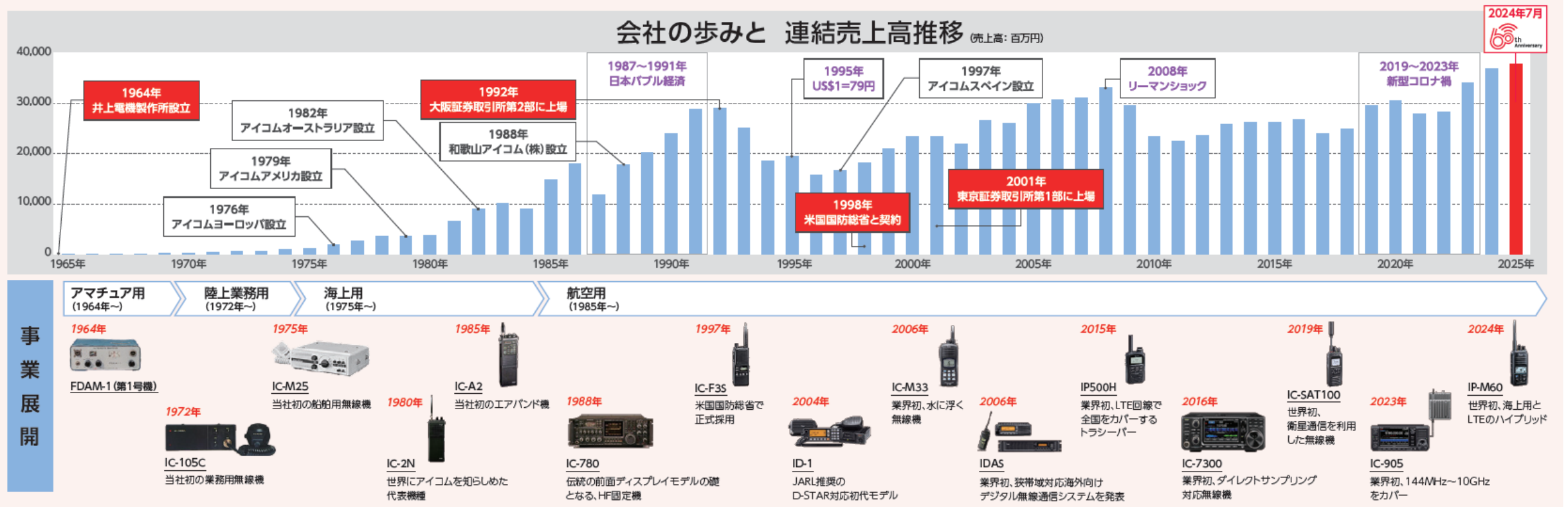
100年企業を目指す：

これからも、RF技術をコアコンペタンスに、いち早く市場やユーザーのニーズに応えることで、100年企業へ

アイコム株式会社の歩み

■ 確実な成長

- 様々な「時代」、「経済環境」の変化、「技術革新」を経て、多様なカテゴリーへ展開するとともに、多くの世界初・業界初を「アイコム製品」で実現



アイコム株式会社の強み

■ 製品カテゴリ展開による安定性

- アマチュア無線を祖業として、現在主要無線機カテゴリ・製品ポートフォリオを「**同一ブランド**」で取り扱う総合無線機メーカーは「**アイコム**」のみとなっております。



祖業製品カテゴリ
アマチュア無線通信機器
からの他分野への展開



業務用無線通信機器



海上用無線通信機器



航空用無線通信機器



IP無線通信機器

アイコム株式会社の技術

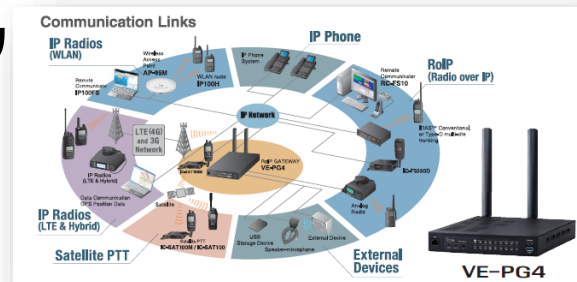
■ 社是：「常に最高の技術者集団であれ」

- 創業以来60年の「無線」にこだわった技術の蓄積



保有技術の例：

- 量産品に展開可能な高周波（130 kHz～10 GHz）技術に関するノウハウ。
- デジタルが主流となった現在でも必要とされるAMやFMなどのアナログ無線機の開発。
- 複数デジタル無線プロトコル。D-STAR、APCO P25、NXDN™、dPMR™、国内公安向け、衛星など。
- 異なるプロトコル間（普段互換性を持たない製品）のシームレス通信を可能とする技術。
- 防爆、海上遭難・船舶専用、航空無線のTSO、レーダー、米軍基準環境試験など、特殊規格に適応した無線技術とノウハウ。
- LTE（3G/4G/5G）および無線LANや関連するゲートウェイネットワーク技術とノウハウ
- ロボットによる自動生産など、無線機の製造に特化した生産技術。



アイコム株式会社の「初」

■ 業界の老舗にふさわしい社是：「常に最高の技術者集団であれ」

➤ 技術とイノベーションを絶えず磨き上げ、世界や業界「初」を数々生み出したアイコム。

世界初

- トランジスタアマチュア無線機
 - 無線機でのデジタルPLL採用
 - 無線機にスペクトラムスコープ搭載
 - 6.25 kHz狭帯域デジタル技術
 - 衛星対応PTT無線機
 - LTE + 海上無線ハイブリッド製品
 - 超高周波(SHF)アマチュア無線通信機の量産化
- など

業界初

- 無線機でリチウムイオン電池採用
 - 水に浮く無線機
 - 海上 + 業務用対応無線機
 - アマチュア無線デジタルプロトコル
 - 日本初米国防省無線機採用
 - 日本初米TSO航空規格取得
 - 無線機に特化したSoCチップ開発
 - 複数無線プロトコル対応GW
- など

597
件

特許件数

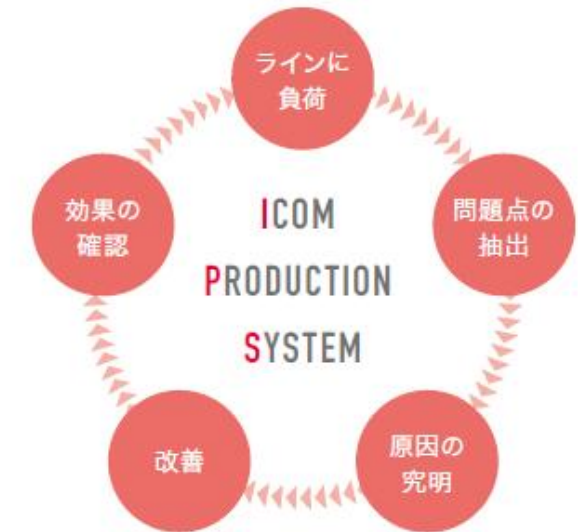
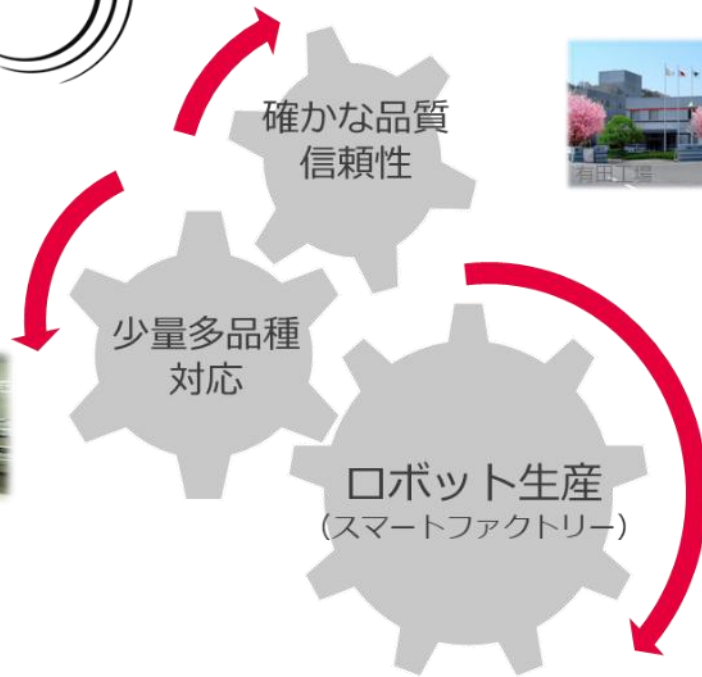
アイコム株式会社の強み

■ アイコムのこだわり : Made in Japan

■ 自社生産／Made in Japanのこだわり

全ての無線通信機を和歌山アイコムで生産しています。

Made in Japan
本当の品質を日本から



和歌山アイコム(株)公式HP:

<https://wakayama.icom.co.jp/>

アイコム株式会社の強み

■「チーム・アイコム」

- 1,100人強のアイコム社員の力を今後も最大限に発揮してまいります。



アイコム株式会社の強み

■ 強固な経営基盤およびファンダメンタルズ（2025年3月末実績）

738
億円

総資産

267
億円

現金・同等物

0
億円

有利子負債

91.2
%

自己資本比率

30期

連続黒字

341→371→
374億円

連続記録更新

8.3→9.1→
9.9%

営業利益率実績

約**73**億円

累計投資額※

※「中期経営計画2026」の対象となる2023年度、2024年度の累計投資額

アイコム株式会社の強み

■ 100年企業に向けて、揺るぎない経営基盤（2025年3月末時点）

➢ 中長期的なビジョンに向けての足固めに積極的な投資活動。

1,057
人

総社員数

>360
人

エンジニア数

2社買収
(Aquihring実施)

M&A活動

50
人/年

平均入社人数

企画→設計→
製造→販売→
サポート

社内完結体制

本社・設計・
品質保証・
製造・営業

国内保有施設

北米・
豪州・独
(自社ビル)

海外保有施設

4,000
m²

近年土地購入

アイコム株式会社のサステナブル経営

■ 長期的な成長ポテンシャル

➤ アイコムが参入可能な無線カテゴリの各市場の推定規模は下記の通りです。



アマチュア無線機

市場動向（推定規模：300億円）：
2021年の世界アマチュア人口(アクティブ・ハム・ユーザー)は、約175万人と推定。



陸上用無線機

市場動向（推定規模：2.0兆円）：
市場全体が狭帯域デジタルへ置き換わった後、現在は、当社が得意とするLTEへの置き換えが加速しています。



海上用無線機

市場動向（推定規模：3,000億円）：
海上用無線機市場では、アイコムはブランド認知度、製品供給能力及び技術の革新により、40年以上の間トップメーカーとなっています。



航空用無線機

市場動向（推定規模：1,500億円）：
アイコムは「グラウンド・ユース」用途として、ベンチマークとなっています。日本の無線機メーカーでは初めてTSO認証取得を実現しました。



ネットワーク製品

市場動向（推定規模：8,000億円）：
価格競争が激しい消費者向けではなく、日本国内市場のニッチなユーザーをターゲットとしています。

アイコム株式会社のサステナブル経営

■「100年企業」になるための条件が揃っている

✓ 豊富な人材

✓ 豊富な財力

✓ 豊富な技術力

✓ 自社開発・生産能力

ICOM



100年企業

✓ 世界販売ネットワーク

✓ 確率したブランド力

✓ 十分な市場可能性

✓ 安定した成長能力



2025年3月期 決算説明会資料



アイコム株式会社

目次

1. 2025年3月期 決算概況

2. 今後の見通し

3. トピック

1. 2025年3月期 決算概況

- 2025年3月期 決算ハイライト
- 売上高及び収益増減
- 資産及びキャッシュフローの増減
- 品目別売上高増減
- 品目別売上高構成
- 地域別売上高増減
- 地域別売上高構成
- セグメント別 売上高 – 所在地別 –
- 2025年3月期時点に実施した投資の概要

2025年3月期 決算ハイライト

¥

売上高: **37,468** (百万円)
(前年同期比: +0.9%)



KPI

営業利益: **3,721** (百万円)
(前年同期比: +9.0%)

利益率: +9.9% ※KPI: 10%



経常利益: **3,902** (百万円)
(前年同期比: -11.6%)

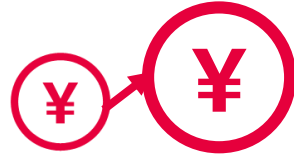


KPI

ストックビジネス: **3,556** (百万円)
(前年同期比: +17.2%)

※KPI: 8%以上

2025年3月期 決算ハイライト



累計投資実績*: **7,300** (百万円)

(*2024年3月期～2025年3月期)

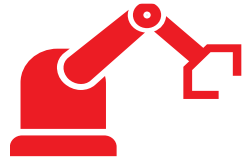
※3か年計画 105億円

KPI

試験研究費: **4,005** (百万円)

(前年同期比: +1.1%)

※KPI: 年間売上比率10%以上



総生産実績: **847,466** (台)

(前年同期比: ▲27.7%)

KPI

ロボット生産実績: **272,055** (台)

ロボット生産比率: 32.1%

※KPI: 30%以上

売上高及び収益増減

単位：百万円

	前連結会計年度 (2024年3月期)	当連結会計年度 (2025年3月期)
売上高	37,117	37,468
売上原価	21,079	20,818
売上総利益 (利益率)	16,037 43.2%	16,649 44.4%
販売費及び一般管理費	12,621	12,927
営業利益 (利益率)	3,415 9.2%	3,721 9.9%



- ◆ アマチュア用無線通信機器は、60周年記念関連製品及び新製品効果により、増収
- ◆ 陸上業務用無線通信機器は、国内で各種入札案件を獲得。また、IP無線/衛星無線の売上が堅調に推移したことに伴うストックビジネスの伸長を図れたことで、前期を上回る実績。しかしながら、米州の一時的な在庫過多状態による滞留により、減収
- ◆ 想定に比べ為替相場が円安で推移
(前年同期比で対米ドル:6.7%、対ユーロ:6.3%の円安水準)
- ◆ 売上高は、3期連続で過去最高を更新
- ◆ 営業利益は、円安による人件費など販売費及び一般管理費の増加はあったが、製品粗利率の増加により前期を上回る実績

※売上高に占めるストックビジネスの状況

単位：百万円

	前連結会計年度 (2024年3月期)	当連結会計年度 (2025年3月期)
売上高	37,117	37,468
製品売上	34,084	33,912
ストックビジネス (ストック割合)	3,033 8.2%	3,556 9.5%

資産及びキャッシュフローの増減

■ 資産

	単位：百万円	
	前連結会計年度 (2024年3月期)	当連結会計年度 (2025年3月期)
資産の部		
流動資産	50,077	48,685
固定資産	23,081	25,203
資産合計	73,159	73,888
負債の部		
流動負債	5,988	4,515
固定負債	1,425	2,012
負債合計	7,414	6,528
純資産の部		
株式資本	60,786	62,345
その他の包括利益累計	4,958	5,014
純資産合計	65,745	67,359

■ キャッシュフロー

	単位：百万円	
	前連結会計年度 (2024年3月期)	当連結会計年度 (2025年3月期)
営業活動によるキャッシュフロー	2,208	2,513
投資活動によるキャッシュフロー	-3,675	-2,669
財務活動によるキャッシュフロー	-1,124	-1,393
現金及び現金同等物の期末残高	606	-96

■ 資産

資産の部：前連結会計年度比 +729百万円

増加：退職給付に係る資産、土地、売掛金、投資有価証券、建物及び構築物、建設仮勘定
減少：現金及び預金、棚卸資産（合計）、有価証券、機械装置及び運搬具、有形固定資産のその他

負債の部：前連結会計年度比 ▲885百万円

増加：繰延税金負債、退職給付に係る負債
減少：未払法人税等、未払金、賞与引当金、買掛金

純資産の部：前連結会計年度比 +1,614百万円

増加：親会社に帰属する当期純利益、退職給付金に係る調整累計額
減少：余剰金の配当、為替換算調整勘定、その他有価証券評価差額金

■ キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフロー：+304百万円

増加：税金等調整前中間純利益、減価償却費、棚卸資産の減少
減少：法人税等の支払、売掛債務の増加、営業活動その他、受取利息及び受取配当金、仕入債務の減少

投資活動によるキャッシュフロー：+1,006百万円

増加：投資有価証券の売却による収入、利息及び配当金の受取、有価証券の売却
減少：有形固定資産の取得による支出、預入危難3か月超定期預金、投資有価証券の取得による支出、投資活動その他

財務活動によるキャッシュフロー：▲268百万円

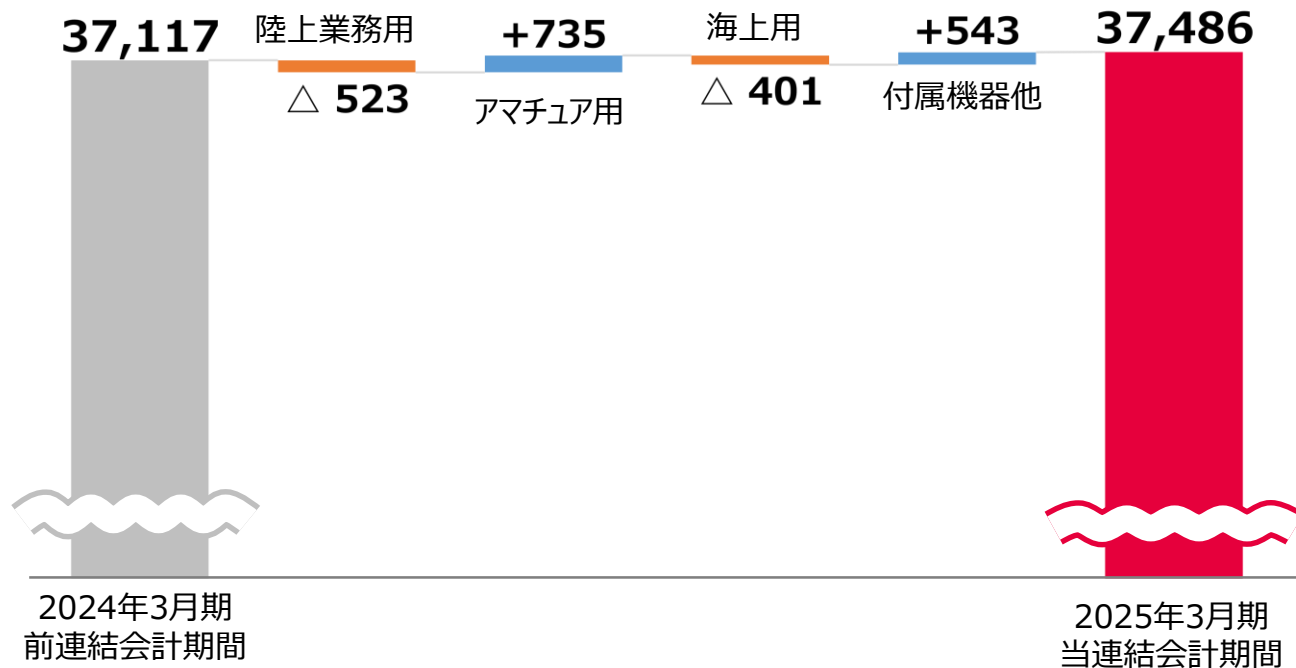
減少：配当金の支払

品目別売上高増減

単位：百万円

	前連結会計年度 (2024年3月期)	当連結会計年度 (2025年3月期)
売上高	37,117	37,468
陸上業務用無線通信機器	17,812	17,289
アマチュア用無線通信機器	6,010	6,745
海上用無線通信機器	4,036	3,635
付属品その他	9,255	9,798

(単位：百万円)



陸上業務用無線通信機器：前期比3.7%の減収

地政学的リスクへのBCP対策としてのIP無線、衛星無線等の需要拡大はあるものの、米州において、一時的な市場在庫の滞留による売上減が影響し、減収。

アマチュア用無線通信機器：前期比4.4%の増収

引き続き堅調な需要による売上に加え、当期に発売した60周年記念関連製品等の新製品効果もあり、増収。

海上用無線通信機器：前期比1.7%の減収

海外での物価高騰に伴う船舶需要の落ち込みにより、第2四半期以降の販売が鈍化し、減収。

付属品その他：前期比0.4%の増収

海洋航法機器の売上が、経済活動の停滞により低調な売上となったが、航空用無線通信機器及びネットワーク機器が堅調に推移し、前期並みの実績。

※品目別売上高構成は、次項を参照ください。

品目別売上高構成

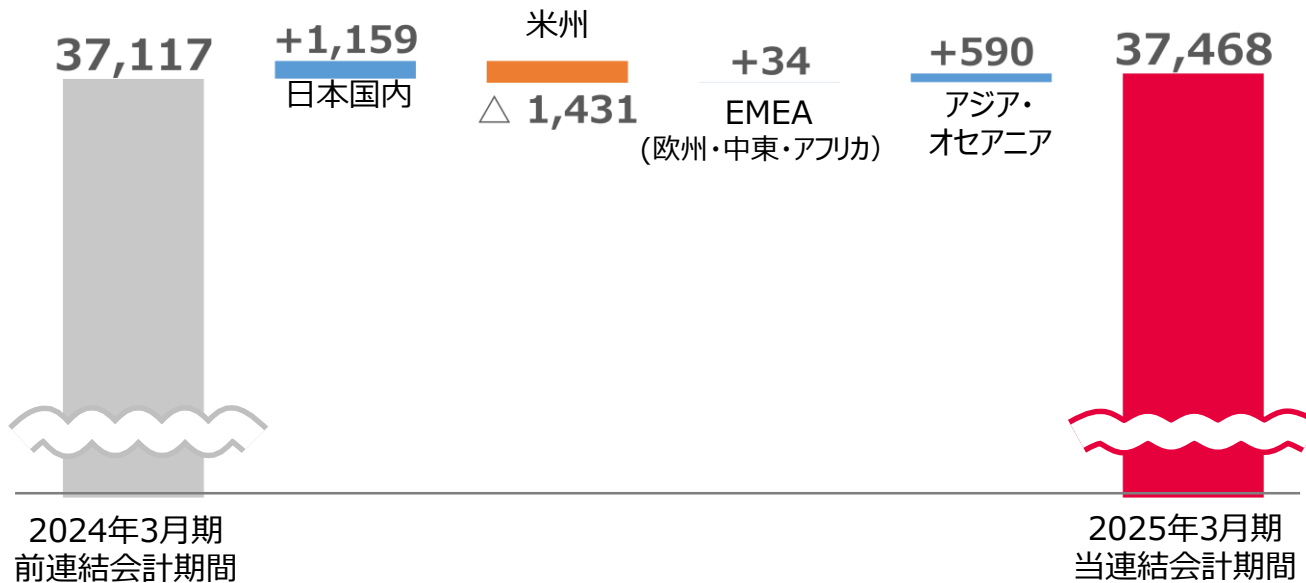


地域別売上高増減

単位：百万円

	前連結会計年度 (2024年3月期)	当連結会計年度 (2025年3月期)
売上高	37,117	37,468
日本	11,337	12,496
米州	13,579	12,148
EMEA（欧州、中東・アフリカ）	6,245	6,279
アジア・オセアニア	5,955	6,545

(単位：百万円)



日本：前期比10.2%の増収

陸上業務用無線通信機器において、従来型RF無線機からIP無線機への置換需要増に加え、引き続きストックビジネスが堅調に推移したこと、また、各種入札案件の獲得により、増収。

米州：前期比10.5%の減収

アマチュア用無線通信機器は、60周年記念関連製品及び新製品効果により、増収。しかし、海上用無線通信機器及航空用無線通信機器は、経済の先行き不安によるレジャー需要の停滞により、減収。

陸上業務用無線機は、部材調達難解消による一時的な在庫過多状態による在庫滞留により、減収。

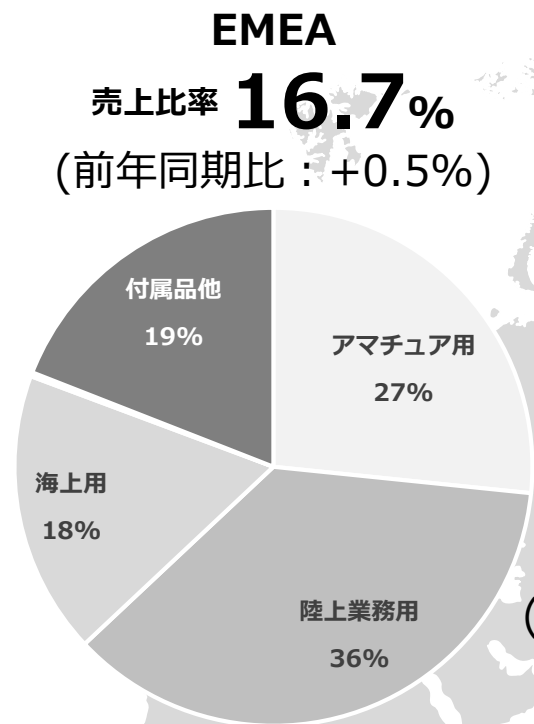
EMEA：前期比0.5%の増収

アマチュア用無線通信機器は、強い需要の下支えと60周年記念製品等の新製品により好調に推移。陸上業務用及び航空用無線通信機器は、需要停滞の影響があったものの案件獲得、衛星無線機の伸長などにより、増収。

アジア・オセアニア：前期比9.9%の増収

アジア地域で、戦略機種種の販売が堅調に推移し、売上を伸ばしたことに加え、オーストラリアにおいて、コンシューマー製品は、需要停滞により、販売減となったが、陸上業務用無線通信機器においてCB機、衛星無線通信機器、IP無線の売上増により、増収。

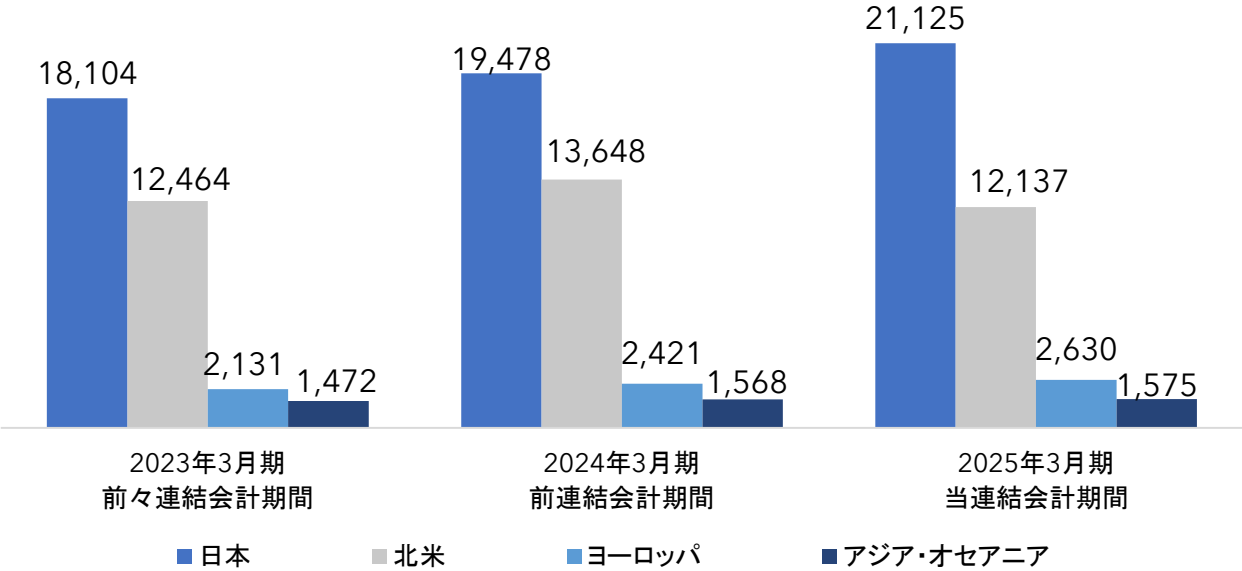
地域別売上高構成



セグメント別売上高 – 所在地別 –

(百万円)		2024年3月期		2025年3月期		対前期増減率
		前連結会計期間	構成比	当連結会計期間	構成比	
売上高		37,117	100.0%	37,468	100.0%	+0.9%
※セグメント別	日本	19,478	52.5%	21,125	56.4%	+8.4%
	北米	13,648	36.8%	12,137	32.4%	△11.1%
	欧州（EMEA）	2,421	6.5%	2,630	7.0%	+8.6%
	アジア・オセアニア他	1,568	4.2%	1,575	4.2%	+0.4%

(百万円)



※各セグメントに属する会社

日本	アイコム本社、和歌山アイコム(株) アイコム情報機器(株)、(株)マクロテクノス (株)コムフォース
北米	アイコムアメリカ、アイコムカナダ アイコムブラジル、アイコムメキシコ
ヨーロッパ	アイコムヨーロッパ、アイコムスペイン
アジア・オセアニア	アイコムオーストラリア、アイコムアジア 深圳信響通信有限公司

2025年3月期時点に実施した投資の概要

2025年3月期 投資実績

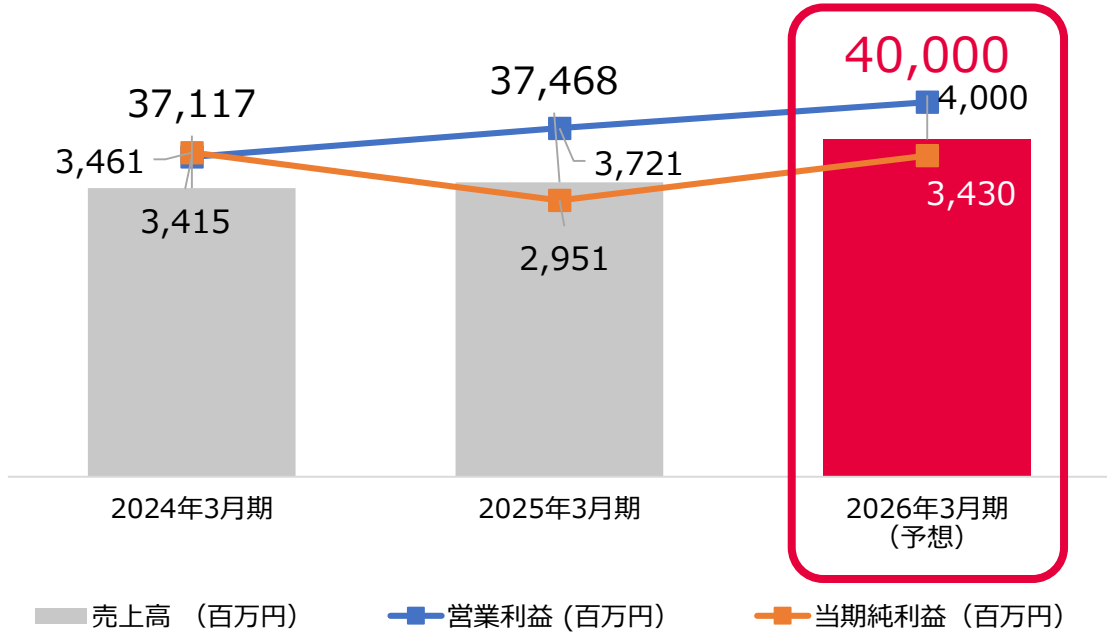
		3年計画	2年累計実績	投資概要
設備投資	設計環境の再整備/ 働く環境の再整備	35～40億円	約22億円	- 国内の設計施設や老朽化している施設の建築、また将来の拡充に備えた用地の取得 - 設計業務に必要な電子装置購入(測定器、高性能PC、その他装置)
研究開発	新規技術取得のための取り組み	50億円	約40億円	- 次世代公安向け及びパブリックサービス向け無線機開発の開始 - IP無線関連新製品（周辺機器含む） - SHFの更なる高周波数(24GHz)モジュールプロトタイプの開発 - AI技術の具体的な取り組み・取り入れの具体化を進めている
	新規ビジネス	10億円	約9億円	- IP無線と関連するVPN装置の開発、新たな分野への参入と共に、ストックビジネス収益も確保する - IP無線と関連する新たなアプリ開発。ソリューションの多様化および新規顧客開拓と共にストックビジネス収益も確保する - 戦略的M&Aの実施(SI会社の完全子会社化)やパートナーとの業務提携等 - 産学共同や超高周波実験など無線機材の提供などを実施
その他	人材確保・育成等	5億円	約2.2億円	- 海外での技術対応のため、追加人員異動により、現地開発部隊を強化 - 社員の階層別トレーニング、次世代リーダーの育成など、外部機関による研修を実施 - 将来の新規ビジネス分野構築のため、「事業構想プロジェクト」を発足

2. 今後の見通し

- 2026年3月期 業績予想
- 2026年3月期 配当予想

2026年3月期 業績予想

2026年3月期 連結業績予想			
売上高 400億円	営業利益 40.0億円	営業利益率 10.0%	
親会社株主に帰属する当期純利益 34.3億円		当期利益率 8.6%	
投資計画	設備投資	減価償却費	試験研究費
	17.64億円	11.98億円	46.00億円
2025年3月期実績値	19.03億円	10.99億円	40.05億円



2026年3月期 業績予想

■売上高

- 2026年3月期の経済動向を踏まえ、物価上昇や物流コスト増など需要に影響することも想定されるが、注力している陸上業務用無線通信機器において、国内の拡大している需要の獲得と、海外でのカスタマイズによる新規需要の獲得を進める。
- 陸上用、アマチュア用、海上用等の複数の通信分野を取り扱う当社グループの強みを活かし、幅広い的確に顧客の要望を捉えることで、売上高は、2025年3月期の水準を上回ると予想している。
- 営業利益及び経常利益は、米国の関税政策の影響が不透明ではあるが、現時点では前期と同様に積極的な設備投資、広告宣伝活動の強化及び人件費の増加等を前提とした利益計画としている。
- なお、米国の関税措置への対応については、関税措置開始前から米国には一定の在庫を保有しており、米国内の需要には当面の間は在庫で対応する。その後は、日米間交渉の展開に応じて対応を検討する。

■設備投資

和歌山アイコム スマートファクトリー化を継続推進する。また、5G関連製品や10 GHz以上のマイクロ波研究と共に、設計の設備環境への投資も行う。

■想定為替レート

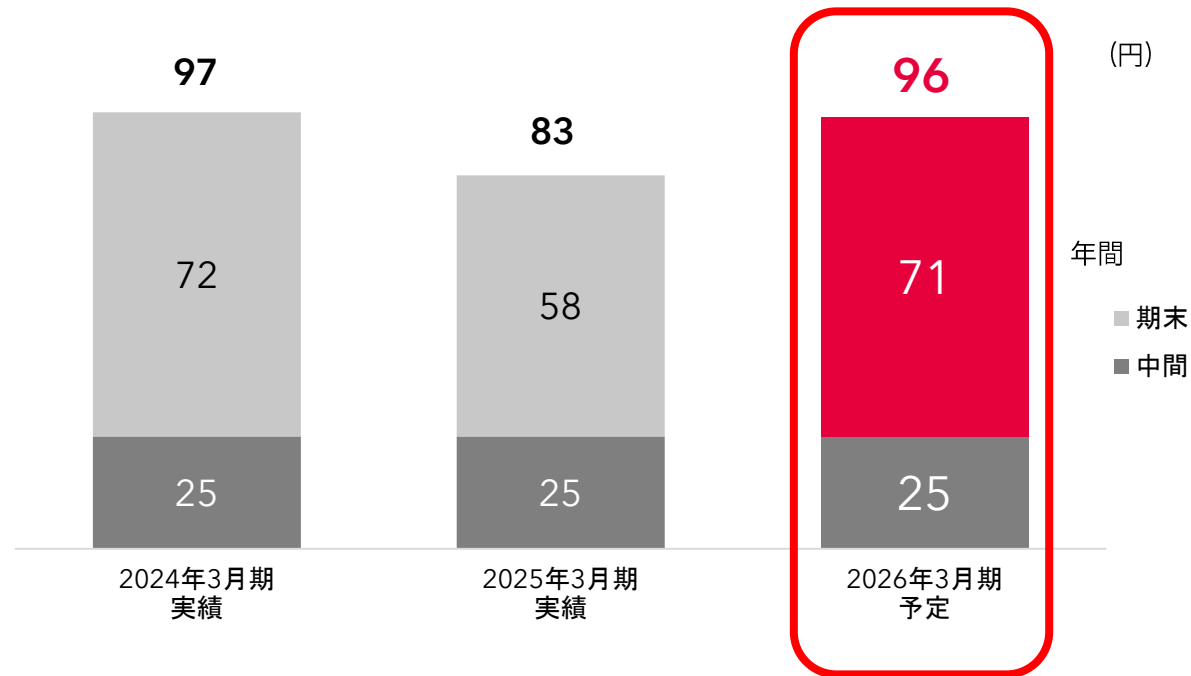
為替レート	2026年3月期 通期想定	2025年3月期 実績値
USD	150.00円	152.72円
EURO	160.00円	163.94円

2026年3月期 配当予想

	中間	期末	年間	配当性向
2024年3月期 実績	25円	72円	97円	40.2%
2025年3月期 実績	25円	58円	83円	40.4%
2026年3月期 予定	25円	71円	96円	40.2%

※増配の予定

ただし、株主還元方針に基づき、1株当たり年間配当額50円あるいは連結配当性向40%のいずれか高い方を下限とすることを継続します。
尚、予想以上の利益を実現した場合、別途、さらなる株主への利益還元も適宜検討します。



3. トピック

- サステナビリティ ： 英語版サイトを開設
- サステナビリティー ： 最新の取り組み評価
- その他

トピック

■ サステナビリティサイトを開設：英語版サイト公開

トップメッセージ



アイコムサステナビリティ >



ステークホルダーエンゲージメント >



マテリアリティと実施 >



環境 (E) >



社会 (S) >



ガバナンス (G) >



アイコムの取り組み



コミュニケーション

人とひとが分かりあう、結びつく、協力しあう活動についての取り組み

[活動についてはこちら](#)



安心・安全

災害や事故などを防いだり、被害の軽減に貢献する取り組みについて

[活動についてはこちら](#)



次世代育成

未来を担う子ども・若者の夢や挑戦をサポートする取り組みについて

[活動についてはこちら](#)

Top message



Topics



2025.03.14

Sponsorship for the Aridagawa Town Ekiden Road Relay Race with IP transceiver



2025.02.05

Supporting scouting activities with wireless communication equipment and technical



2024.10.24

Supported "TOYOTA GAZOO Racing Rally challenge in Takashima city" with the IP502H, IP

・日本語版：

[サステナビリティ | アイコム株式会社](#)

©2025 ICOM INCORPORATED

・英語版：

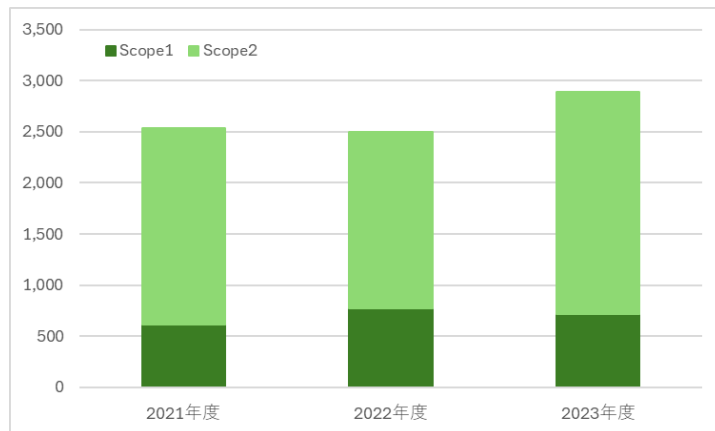
[Sustainability | Icom Inc.](#)

トピック

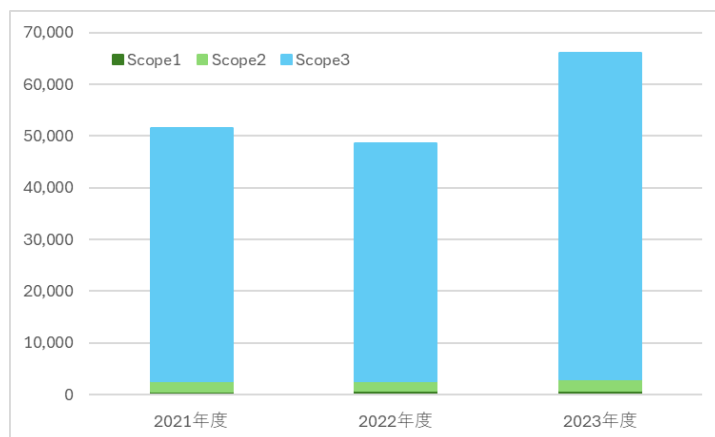
■ サステナビリティ：最新の取り組み評価（気候変動への取り組み）

【TCFDへの取り組み】

➤ Scope1+Scope2の推移



➤ Scope1+Scope2+Scope3の推移



【CDPへの取り組み】

➤ 環境対応：Cスコアー

category	environmental issue	score
Targets	Climate	C-
Verification (Incl. Emissions)	Climate	D-
Governance	Climate	B-
Risk Disclosure	Climate	B-
Scope 3 Emissions	Climate	B-
Opportunity Disclosure	Climate	B-
Value Chain Engagement	Climate	C-
Environmental Policies	Climate	B-
Emissions Reduction Initiatives and Low Carbon Products	Climate	C
Business Strategy	Climate	C
Energy	Climate	D-
Pricing Environmental Externalities	Climate	C-
Dependencies, Impacts, Risks and Opportunities Process	Climate	C
Scope 1 & 2 Emissions	Climate	C
Context	Climate	B-
Public Policy Engagement and Industry Collaboration	Climate	B-

➤ 水資源対応：Cスコアー

category	environmental issue	score
Public Policy Engagement and Industry Collaboration	Water	B-
Targets	Water	C-
Opportunity Disclosure	Water	C-
Water Pollution Management Procedures	Water	B-
Environmental Policies	Water	C-
Risk Disclosure	Water	B-
Governance	Water	C
Water Accounting	Water	C
Value Chain Engagement	Water	C
Dependencies, Impacts, Risks and Opportunities Process	Water	C
Business Strategy	Water	C

トピック

■ その他

➤ 61期新製品（8機種）

- アマチュア用無線通信機器 : IC-7760/RC-7760、RS-PW2、ID-52PLUS（60周年記念モデル含む）
IC-718更新モデル、IC-78更新モデル
- 陸上業務用無線通信機器 : IP510H、IC-DU45、IC-DU7505、IC-RP6300CR
- 海上用無線通信機器 : IC-M25 EVO
- ネットワーク機器 : AP-76M

➤ 技術資料公開（WEB：日本語版）

- ・IC-7760のすべて e-book : [IC-7760のすべて](#)
- ・IC-905開発へのこだわり e-book : [IC-905開発へのこだわり](#)
- ・内線・外線・一斉連絡ができるIP電話<telelink®>製品のサイトを公開 : <https://telelink.icom.co.jp/>

➤ 各種表彰

- 船舶用国際VHFトランシーバー、IC-M510 EVOが米国NMEA賞を受賞
（NMEA賞は、アイコム製品で**11年連続の受賞**） <https://www.icom.co.jp/news/8119/>

➤ 社会活動・CSR

- ・「大阪・関西万博」大阪万博にIMV株式会社との連携により、衛星通信対応地震監視装置を貸与
<https://www.icom.co.jp/news/7457/>
- ・「大阪・関西万博」大阪万博の大阪ヘルスケアパビリオンにオフィシャルパートナーとして協力
<https://www.icom.co.jp/news/8353/>

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている記述の内、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

これら将来見通しに関する事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財務状況、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当企業集団が判断したものであります。

- (1) 生産拠点に関するリスク
- (2) 原材料の調達に関するリスク
- (3) 為替相場の変動によるリスク
- (4) 製品保証に関するリスク
- (5) 知的財産権に関するリスク
- (6) パンデミックに相当する大規模な感染症流行のリスク

などがあります。

※上記に記載したリスクに関する詳細は、有価証券報告書の3【事業等のリスク】に記載しておりますので、ご参照ください。



How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

<お問い合わせ先>

アイコム株式会社 社長室

電話 : 06-6793-5301

Email: BMD@icom.co.jp

URL : <https://www.icom.co.jp/>